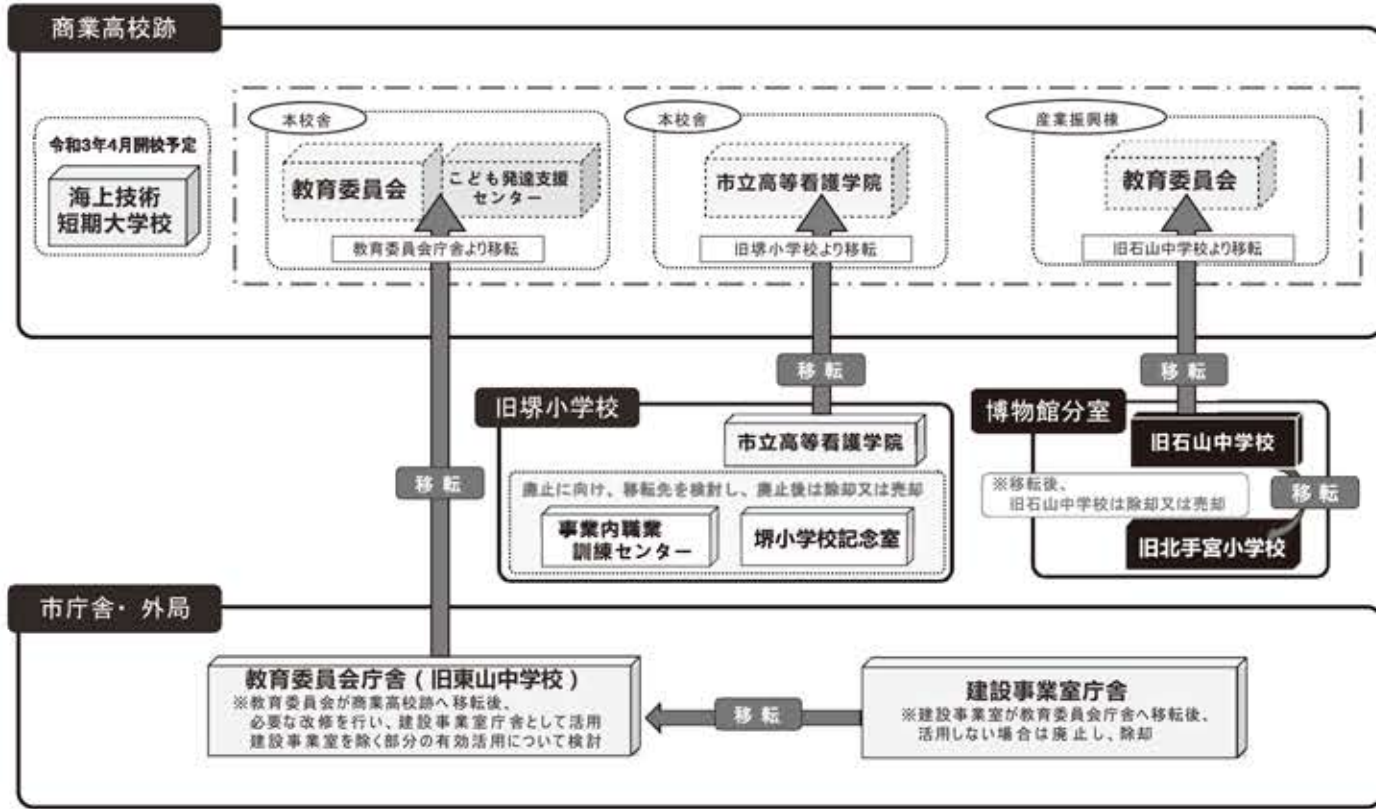
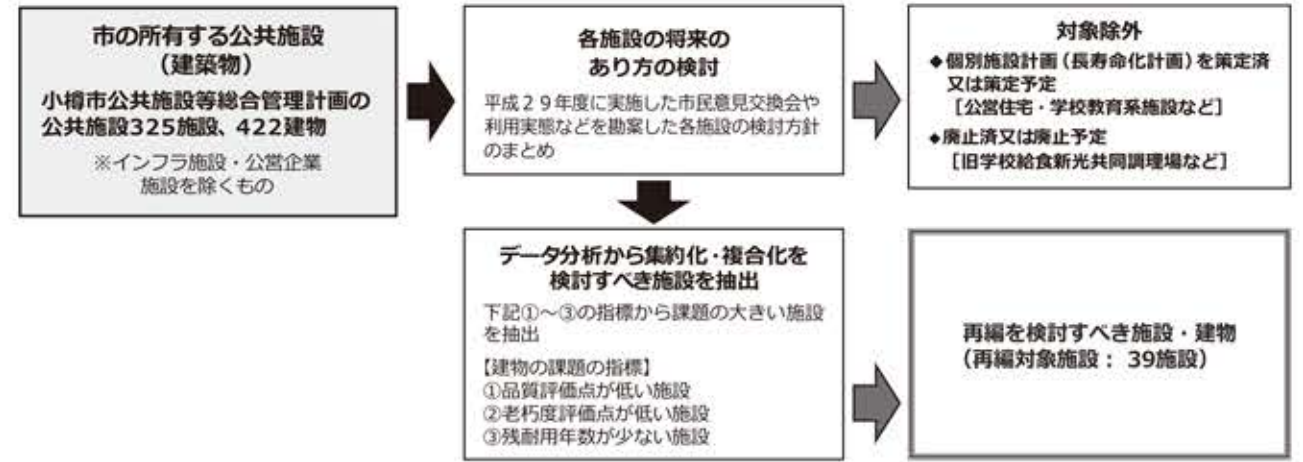


図5 旧小樽商業高校校舎を活用した再編計画（小樽市公共施設再編計画より）



※39施設の再編全体像は小樽市ホームページ内「小樽市公共施設再編計画」にてご覧いただけます。

図3 再編対象施設の抽出（小樽市公共施設再編計画より）



学校教育施設など、別に個別の施設計画を策定するものと、文化財・歴史的建造物100㎡未満の規模が小さい施設等を除いた120施設の中から、老朽化や利用が少ない施設、市民との議論で検討が必要な施設として挙げられた計39施設を今回の再編計画の対象としました。（図3、図4）

さらに、対象施設の中で同じような使い方をしている施設や部屋を集約し、利用率を高めることを検討するため、施設・部屋を9つの「機能」に分けて再編を検討しています。

まちに必要な不可欠である公共施設に対する今後の再編方針の考え方として、次の3つのポイントを掲げています。

**3つの再編方針**

- ①施設総量（延べ床面積）の削減
- ②市の特性や市民ニーズの変化に対応
- ③安全性の確保

施設総量（延べ床面積）の削減といっても、単に施設の「廃止」を指すものではなく、複数に分散している施設を統合して機能を一

か所に集約し、施設の便益性やサービス向上を図るものです。

また、廃止した施設の売却や転用などで管理コストを削減し、よりニーズの高い建物を活用することで市の財政負担削減、利便性向上など双方のメリット創出に繋がるとしています。

各施設の再編を検討するにあたっては、5つの項目について検討を行っています。

**5つの再編手法を検討**

- ①必要な機能・規模
- ②機能に着目した施設再編
- ③民間事業者との連携
- ④財政負担の縮減
- ⑤事業順序

図4 再編計画対象39施設一覧（機能別） ※施設名うしろのカッコは重複機能

【ホール】 小樽市民会館 産業会館	【運動】 総合体育館	塩谷児童センター	銭函サービスセンター	公設青果地方卸売市場
【学習・交流】 勤労女性センター 勤労青少年ホーム(運動) 銭函市民センター(運動) 生涯学習プラザ 総合福祉センター(福祉・子育て)	【福祉】 身体障害者福祉センター 子ども発達支援センター さくら学園 生活サポートセンター	【行政】 保健所庁舎 本庁舎本館 本庁舎別館 本庁舎自動車庫	塩谷サービスセンター 消防本部整備工場 ・消防署高島支所 ・消防署手宮出張所	【その他】 文学館、美術館 事業内職業訓練センター 堺小学校記念室 市立高等看護学院 旧高島魚揚場 葬斎場 於古発川店舗C棟
	【子育て】 最上保育所 手宮保育所	消防本部庁舎 水道局本庁舎 教育委員会庁舎 建設事業室庁舎	【博物館分室】 旧石山中学校 旧北手宮小学校	公設水産地方卸売市場
			【市場】 公設水産地方卸売市場	

同建物の一部は、国立小樽海上技術短期大学校として使用されていますが、残りの多くの部分が活用可能なことから、旧東山中学校にある教育委員会を商業高校跡に移転し、教育委員会庁舎には建設事業室が移転します。また、旧堺小学校にある市立高等看護学院も商業高校跡に移転し、旧堺小学校内にある事業内職業訓練センター、堺小学校記念室は移転先を検討します。さらに、旧石山中学校にある博物館分室の機能を商業高校跡と旧北手宮小学校に移転し、旧石山中学校は除却または売却を検討します。

このような形で、商業高校跡を活用した再編が計画されています。

**3 再編に向けた今後の課題**

公共施設の再編は、小樽に限らず全国の市町村で進められています。人口の減少、少子高齢化に伴う税収の伸び悩みや、施設の老朽化による安全性の確保、利用者ニーズの変化など、小樽と同じ課題を抱えています。

公共施設は、子育て支援、行事や交流活動を支援するレクリエーション施設、教育学習・勤労支援、福祉支援など、社会生活を営む私たちにとって大切な地域社会やコミュニティの核であり、将来にわたり市民に寄り添う「まち」であり続けるための重要な行政サービスです。

小樽市は、公共施設再編計画をもとに、今年度中に、個別の施設ごとの整備方針と維持管理方針を示す「長寿命化計画」を策定する予定となっています。

再編にあたっては、優先順位や再編手段、統合か削減か、あるいは移転建替が必要なのか、民間との連携は可能かなど、市民との対話を通じてニーズや財政状況を含め総合的に判断をしていくこととなります。

また、行政には、施設を長く利用していくための計画的な維持・管理をしていく体制が求められます。

行政サービスの水準を維持しながら、公共施設を再編するという非常に難しい対応が求められますが、市民が安心して暮らしていただける、まちづくりのためにも公共施設の再編は必要なものであり、商工会議所は公共施設のあり方について今後も考えていきます。